

解体工事から地盤調査・補強工事、 外構工事、廃棄物処理まで、 シームレスにサービスを提供

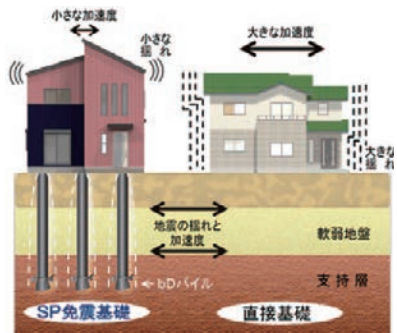
ふくろうちこうぎょう
袋内興業

袋内興業(横浜市保土ヶ谷区上菅田町、小野博社長、045・383・0234、<http://www.fkgroup.co.jp>)は、昭和46年の創業以来、廃棄物処理、解体工事、外構工事、地盤調査、補強工事と住宅に付帯する専門工事を手がけ、得意先は地元の個人に始まり、工務店、設計事務所、不動産、大手デベロッパ、ゼネコンと幅広い。長引く建設不況の中でも成長し続け、徹底した業績管理と顧客のニーズを探索、それに応えるべく、技術の研鑽、すぐれた商品の提供に注力してきた。

阪神淡路大震災以降定着した一般住宅の地盤調査・補強工事にはさまざまな工法があり、同社が採用しているのは、ピユアパイル工法とSP免震基礎工法である。

ピユアパイル工法はセメントミルクを地中でそのまま杭状に固化させるため、地盤種別によらず、高品質で支持力も高い安心確実な工法である。そして、原地盤をセメントミルクで置換するため、従来の工法に比べて攪拌する工程がなくて、残土がほとんど発生しないので、工期短縮、コスト削減が実現できる。

また、SP免震基礎工法は大臣認定を受けている小口径の鋼管材を用いて、杭に働く水平地盤反



SP免震基礎工法

せん。当社では、万が一不具合が生じても、しっかりとアフターフォローのできるだけの体制と体力を備えています。それが、品質にこだわっている最大の証だと考えています」と小野社長は熱く語る。



解体工事現場

力により建物を周期地震動に共振させないことで、免震の効果を発揮させることが可能である。通常、軟弱地盤の方が地震による被害は大きいですが、SP免震基礎工法では軟弱地盤の方が杭への依存度が強くなる結果、免震効果が大きく期待できるという。一般的な免震装置のように高額な費用が別途かかる訳ではないので、一石二鳥の注力工法である。

「過度な価格競争も少なくな